



2月3日の豆打式



宗 像



遷宮で結ぶ人の輪心の輪
第六十二回神宮式年遷宮

3月祭事暦

- 毎月1・15日 **月次祭**
- 午前10時～
高宮祭
第二宮祭・第三宮祭
宗像護国神社祭(1日)
- 午前11時～
総社祭
浦安舞奉奏(1日)
豊栄舞奉奏(15日)
- 4日 **氏貞公墓前祭**
- 午前11時～
於=宗像市上八氏貞公墓前
本年は仏式で斎行
- 19日 **松尾神社祭**
- 午前11時～
於=境内松尾神社
- 21日 **皇霊殿遙拝式**
- 午前10時～

むなかた大節分祭

1/30、2/3日の両日で

約四千人が参集

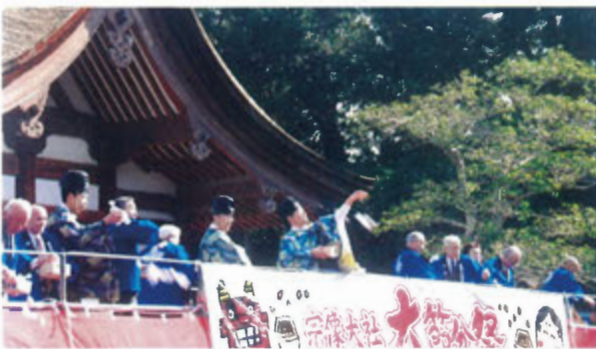


一月三十日と二月三日の両日、五年目を迎えた宗像観光協会(吉武邦彦会長)との共催による「むなかた大節分祭」が行われ、「福」を授かるうとする参拝者約四千人が参集し、寒さを感じさせない熱気で賑わった。

一月三十日

前々日二十八日に氏子青年会、観光協会の奉仕により本殿横に特設舞台を設置、又斎館前のイベント会場には出店ブース、ステージ等が設けられ、参拝者の受入れ態勢が整えられた。

一月三十日午前十一時、豆打式は大粒の雪が降る中、一時間前には今か今かと待ち構える参拝者が押



一昨年六月から
始まったエコカ
補助金、昨年

九月に終了するまでの間、当大社には車被(交通安全祈願)が殺到した。現在その反動著しいものの、宗像大社における交通安全信仰の重要性を思い知らされた出来事であった▼そして今月十二日、いよいよ九州新幹線が全線開業する。交通安全・宗像大社の実質的なさきがけは、明治時代まで遡る鉄道関係者の崇敬にあり、現在も大前におけるその年最初のご祈禱はJR九州である▼本年も社長以下参列、年明けとともに参集された。その後、各部、駅ごとに自費で運転手・車掌・駅員等職種も様々な同期入社の方々の安全祈願を申し込まれる方々もおられ、公共交通を担う意識の高さに感銘を受けた▼その一方で当県は飲酒事故全国ワースト。幼い子供三人の命が奪われた飲酒事故も記憶に新しいが、先月九日には男子高校生二名が死亡する飲酒運転事故も発生した▼神職の本義は「祈ることであり、祈願者に安全運転の誓いをたてていただく、加護があるよう祈りを奉げることだが、それ以外にも無くなることのない飲酒事故に対し、何かできることがないか模索したい。(塚)

神具・装束・授与品
井筒

- 兼束店 〒600-8503 京都市下京区油小路通六条上る
フリーダイヤル 0120-075-980
- 福岡店 〒812-0068 福岡市東区社領1-12-10-401
フリーダイヤル 0120-055-092
- 授与品店 〒601-8348 京都市南区吉祥院観音堂町23
フリーダイヤル 0120-075-820

木組の家 匠の技

総合建築業 **株式会社 弘江組**

〒811-3406福岡県宗像市稲元4丁目-20 電話(0940)32-2567

し寄せた。定刻、昇殿参拝後、神職と共に地元宗像に拠点をおくプロラグビーチーム「福岡サニックスブルース」の選手や、観光協会メンバーの選中から選ばれた方らが特設舞台に上がり、先ず子供達への豆打式が行われ黄色い歓声が神苑にこだました。



参道の中、行われた豆打式 (1月30日)

引き続き一般参拝者の豆打式が入場制限を行いながら二回撒かれた。午後一時三〇分からも同様に豆打式が行われ、冷たい風が時々差し込む中であつたが、寒さを感じさせない熱気でさらに賑わいをみせた。

参道には世界遺産暫定リスト入りした「沖ノ島」を、より多くの皆様を知っていただくようと専用ブースが設けられ、斎館前では同協会による様々な露店が出店され大盛況であつた。なかでも冷えた体を温めようと「ぜんざい」



玉串を捧げる吉武邦彦観光協会会長



豆打式を待つ方々

コーナーには長蛇の列が出来ていた。

ステージでは今年も玄界高校校邦楽部による「玄界太鼓」も催され、神人和楽の賑わいに花を添えた。

二月三日節分祭斎行

二月三日は肌寒さを感じる陽気であつたが晴天に恵まれ、午前十一時災難消除を願う節分祭が古式に則り本殿で斎行された。

責任役員、氏子会、地元総代に加え、年男にあたられる

方、風の子・平等寺・日の里東の三保育園の園児約一〇〇名が参列する中、高向宮司が無病息災・延命招福の祝詞を



「ぜんざい」を求め並ぶ方々

奏上。続いて拜殿上左右二手に分かれた神職により追儺の神事「鳴弦の儀」が執り行われた。二人の神職が桃弓・葦矢を携えて、一人は天空に向け、もう一人は地上に向けて矢を三度射る所作を行い、次に弦を三度打ち天地の邪気を祓い清めた。その後高向宮司、参列社者を代表し置鮎氏子会長が玉串を捧げ、今年一年の厄除開運を祈念した。

祭典後、神職と年男が本殿西側に設営された特設舞台へ移動、平日にもかかわらず詰め掛け



玄界高校生による和太鼓



観光協会による食事コーナー

た大勢の参拝者が待ち受ける中、葦津禰宜による「福は内、鬼は外」の発声と共に福豆がまかれると、本殿周辺は瞬間に熱気に包まれ、各々福運を手にした。



晴天に恵まれた2月3日の豆打式

温かい「ぜんざい」をいただき、満足そうな様子であった。

両日の大節分祭で撒かれた福豆の数は約六万袋。当大社と観光協会で分担し袋詰め作業が行われたが、例年の小さな餅が危険とのことで、炒らされた大豆やお菓子の他に今年



からイリコを袋詰めしたものに変更された。好評であった。そして福豆のなかには、北九州市の航空会社「スターフライヤー」から東京〜北九州間の往復航空券や、玄

界灘で獲れた新鮮な鯛の刺身と鍋をセットにした「玄海天然セット」、宗像の野菜、生花などの特産品や、道の駅「むなかた」のお買物券に加え、当大社からは「節分厄除みくじ」の一回無料券や、神宝館の無料拝観券が「当たり券」として福豆に付けられた。



節分祭 祭典

本年も宗像観光協会が中心となり、宗像大社氏子青年会、宗像歴史観光ボランティア、福岡サニックスブルース、玄洋むなかたの諸団体に助成いただいたほか、道の駅「むなかた」、スターフライヤーにも特別御協賛を賜った。御奉仕い



鳴弦の儀



ただきました各団体各位には衷心より御礼申し上げます。



福豆の奉製作業



建国祭齋行

二月十一日午前十一時、本殿で我國の誕生を祝う建国祭が厳肅に齋行された。

生憎の雨模様となり、祭典時にはさらに雨脚が強くなつた。



神前で奉奏される浦安舞

だが、定刻には多くの参拝者が見守る中、高向宮司以下奉仕神職・巫女、参列者が参進、所定の座に着座し祭典が始まった。

神武天皇建国以来の国体護持と皇室・国家、国民の弥栄を祈念し祝詞を奏上、続いて巫女による浦安舞奉奏、各代表者が玉串拝礼を執り行い、祭典は滞り無く終了した。

今年(昭和四十一年)に「建国記念の日」が制定されてから四十五年目となる。「日本書紀」では辛酉の年春一月一日、神武天皇が大和の橿原の地に即位式を挙げられた日、太陽暦の採用に伴い現在の二月十一日となり「紀元節」として我が國の誕生の日と制定



奉仕を終え退出する神職

され大東亜戦争敗戦により廃止される迄、全国に拡がっていた。

現在でもこの日には、全国各地で様々な神事や式典等の奉祝行事が行われているが、奉祝反対の集会も目立って行われている。何処の国に於いても国民は誇りを持って國の建国を祝い、文化を継承して行く。日本人はこの「建国記念の日」の意義を各々充分に認識、世界でも有数の文化・歴史・伝統を持つ我が國を世界に示し、亦、子孫に継承していかねばならない。



平成二十三年 宗像大社海洋神事奉賛会初会合

一月二十八日、宗像大社海洋神事奉賛会の初会合が当大社にて開催され、権田仁八郎会長をはじめ各漁協代表の方々八名、当大社より高向宮司以下七名が出席し、本年の海洋神事に関する審議がなされた。

当日は会合に先立ち本殿で大漁祈願祭が齋行され、一年の大漁満足・海上安全が祈念された。

会合では先ず昨年の皇室への若布献上の報告が行われ、次いで本年の業務担当である吉野権禰宜が紹介され、業務が引継がれた。

また本年の献上者(漁協代表)は、宗像漁協本所(神湊)と同日ノ島支所より各一名づつ選定頂くことが決定した。次に昨年の「みあれ祭」について審議され、安全性を考慮した縦一列での神幸を本年度も継承する事が確認された。その他にも各漁協から組合員への呼びかけや、宗像七浦(宗像・鐘崎漁協)以外の漁師への協力要請等、海上神幸を盛大に齋行するための活発な議論が交わされた。

尚、皇室へ献上される若布は地ノ島沖で採取されるが、今のところ順調な生育をみせ本年は二月下旬から採取を開始し、三月中旬に献上される見込みである。



第37回

文化財防火デー 防火訓練

晴天の中、関係各機関より
約百十名が参加



本殿での放水訓練とバケツリレー

文化財防火デーの一月二十六日、恒例の防火訓練が宗像大社自衛消防隊、宗像地区消防本部、宗像市消防団(第三・四・十一・十四分団)など約百名が参加し合同で行われた。

天候に恵まれた当日午前九時五〇分、本殿裏の森から出火、国の重要文化財である本殿・拜殿に火勢が迫っているとの想定で開始された。

火災を発見した巫女が拜殿火災報知器を押し、社務所に通報。職員は本殿に駆けつけ、巫女と宗像市女性消防団がバケツリレーを開始、神職は地元消防団とともに消火栓から放水を行い初期消火にあたった。

午前十時には折からの強風にあおられ、祈願殿に延焼拡大したとの想定で一一九番通報。通報を受けた宗像地区消防本部、宗像市消防団の各消防車両がサイレンを鳴らしながら第一駐車場に集結。各隊、統制のとれた動きで配置につき、一斉に祈願殿屋根に放水を開始。本番さながらの消火活動を繰り広げた。

消火活動終了後は、宮部宗像副市長、乙藤宗像本部消防長、荒木宗像市消防団長、最後に高向

宮司が講評し訓練を終了した。

この文化財防火デーは、昭和二十四年(一九四九)一月二十六日、世界最古の木造建築である法隆寺金堂の壁画が焼損したことを契機に、文化財保護のため、さらに一年の内で一・二月は最も火災が発生しやすい時期であるという事で昭和三十年に定められた。

当大社では昭和四十六年に齎行された「昭和の大造営を機に毎年実施するようになり、各関係機関と連携し文化財防火デーに実施し今年で三十七回を数える。

また訓練終了後には、宗像地区消防本部による当大社消防設備への査察も行われ、老朽化したホース等一部を新しくする予定である。当大社が収蔵する貴重な文化財を後世に伝える為にも、今後も消防設備の充実、職員の防火意識の向上を今更以上に取り組まねばと思う。



講評する高向宮司



祈願殿での訓練



九州新幹線全線開通に伴い 宮司「さくら」に試乗、 博多新幹線列車区 神棚動座祭を斎行

二月十三日、来月十二日(土)に全線開業する九州新幹線(博多〜鹿児島中央)の試乗会行われ、所縁ある当大社にも招待があり、高向宮司が「さくら」に乗車し熊本〜博多間を往復した。



新型のN700系車両



写真提供=JR九州

「さくら」は午前9時20分博多駅を発車、熊本までを片道約50分かけて同10時10分に到着

博多駅を最速列車は「みずほ」で、熊本までを約33分、鹿児島までを約1時間19分で結ぶ。他に試乗会でも使用され、主要駅に停車する「さくら」、各駅停車する「つばめ」と三種の運行パターンで鹿児島まで結ばれる。

「みずほ」と「さくら」は新しいN700系車両で、桜の幹を基調とし、直接触れる手すりやテーブル、窓枠にも本物の木材を用いている。シートは重厚感があり、座席配置もグリーン席は勿論だが、指定席も全て通路を挟んで二席づつ(従来は三席二席)と、ゆったり広々とした空間であった。尚、それに先立つ二月二日には、JR博多駅の改修・耐震工事に伴い、博多駅近郊(博多駅前)に移転していた博多新幹線列車区(JR西日本)が博多駅

した。30分後の午前10時40分に熊本駅を発車し、同11時30分博多駅に無事到着した。開業後、博多駅〜鹿児島中央駅を最短で結ぶ(他に熊本駅のみ停車)最速列車は「みずほ」で、熊本までを約33分、鹿児島までを約1時間19分で結ぶ。他に試乗会でも使用され、主要駅に停車する「さくら」、各駅停車する「つばめ」と三種の運行パターンで鹿児島まで結ばれる。

中央街へもどるとのこと、神職二名が出向し神棚動座祭が斎行された。約二五〇名が在籍され運転手や車掌の運行管理を主に行っている同区、当日は博多新幹線列車区長の高本安憲以下約三十名が参列され、九州新幹線開業に伴う業務の安全等が祈念された。新幹線開業も間近かとなる。



博多新幹線列車区の神棚動座祭



写真提供=JR西日本

春まつりの御案内

春季大祭を左記行事日程で斎行致しますので、皆様方お誘いの上御参拝下さいますようお願い申し上げます。

三月三十一日(木) 午後五時 総社地主祭

四月 一日(金) 午後六時 宵宮祭

二日(土) 午前十一時 二日祭(海洋神事事業功労者表彰)

三日(日) 午前十一時 四十分 宗像護国神社春季大祭

高宮祭

第二宮・第三宮祭

交通安全講話

献茶祭(南坊流)

午後二時

午後二時

午後二時

(続)

浜の寄物

253

いしいただし



昨年第十回漂着物学会福岡大会を終了し、私も会長を退任した。今年度から若手の新体制となる。会が益々進化していくことを祈りたい。

学会での基調講演はアジア水中考古研究所、林田憲三

所長から「漂着物と水中考古学」海が私たちに教えてくれること」で、漂着物と水中考古とは密接な関係があるという内容であった。研究発表は五名が行ったが北海道教育大学の鈴木明彦先生の「タカラガイ北上の道」は、二〇〇九年に松前半島に漂着したメダカラガイの報告であった。

今回は小学生の発表もあった。小五年の財部文乃ちゃんが「私の漂着物研究」として、小学二年から夏休みの自由研究に漂着物を取りあげてきた。三年間継続の成果に会場は驚きにつつまれた。

会場となった国営公園海の中道海浜公園と青少年海の家は広い会場、充実した施設で、会員達も大満足であった。ビーチコーミングは公園内の北海岸で海の家から塩屋展望台の周辺である。玄界灘に浮ぶ小呂、玄界、相島、大島、そして弓状の浜、そばに金印の志賀島と眺望がきき白砂がまぶしく会員一同大喜び海岸歩きを楽しんだ。ここは福岡県が誇る海岸であろう。

製のパリタンクは数個あったし、中国製のオレンジやブルー浮子は相変わらず目についた。

西郷川南側のところで、世界の挿鉢片と弥生後期の甕の口縁部片、少し歩くと鯨骨も採集した。久しぶりの海岸歩きに元気をもらった。波打ち際にはカワハギの骨や皮もあった。

もうそこまで春だ。海岸へ行く途中に津屋崎線の跡地が「売地」として出ていた。こんな細長い土地に一体どんな利用があるか、自然地として、残してもよいのではないか。



まばらになった森林、福岡花見

南方産のイメージが強いタカラガイは、子安貝ともいいロマン溢れる貝だが、北海道でも発見され地球温暖化がすごい勢いで迫っているのではと戦慄を覚えた。鈴木氏は温暖化が進めば、タカラガイはさらに北上を続け、地理的分布を拡大するであろうと結んだ。

さて今年の冬は、低温で本当に寒かった。昨年から全国的に見ても、酷暑、豪雪、低温、口蹄疫、鳥インフル、そして新燃岳の噴火と天変地異が続く。



海岸で見つけた漂着物



津屋崎跡地は売地となっていた



大西晶子選 毎月25日メット

評 うきは市 浮羽町 向 則正
 歳旦の妻と静かな朝餉なり雑煮食しつつ息災を謝す
 一年の最初の食事を感謝の気持ちで取る作者が清々しい。初句を「歳旦を」に。

評 宗像市 土 穴 山本 静子
 赤福は伊勢の名物弟が行きてくれたりあんあんこ餅
 弟さんのお土産はとても美味しかったのだろう。三句以降を「弟の旅のみやげの美味きあん餅」としてみた。

評 宗像市 星ヶ丘 佐々木和彦
 旋回をしている鶯の去りしよりただ一色の青空となる
 ひろびろとした空が眼にうかぶ良い歌。下の句を「青一色の秋空となる」などと季節を入れる詠み方もできる。

評 北九州市 八幡西区 豊田 光子
 気配とふ目に見えぬもの萌えいつるけさはしづかに屋根の上の雪
 見えないものを詠もうとする作者の努力が良い。眼にみえぬものの気配のする夜あけ今朝はしづかに雪つもる屋根などとすると分かりやすくなるのでは。

評 福津市 若木台 山崎 公俊
 海の神斎き祀れる宗像は四季を風吹く海の風吹く
 宗像の風は海風だという作者。結句は吹くをはずし、玄海の風、潮の香の風、など風を描写しては。

評 福岡市 南区 井田有久衣
 大晦日明日にひかえ孫からの出産は無事男子誕生
 年末の曾孫の誕生を喜ぶ作者。「出産は無事男子誕生」とかつこで括り孫の言葉に。

評 福津市 若木台 野間 精一
 釣川の岸辺の旗亭に集ひたりわが宗像の正月歌会
 正月歌会の晴れがましき。宗像の固有名がうまく使われている。

評 福津市 中 央 池浦千鶴子
 不味からむねずみもちの実喰ひに来る鳥のゐるらし黒き糞掃く
 ねずみもちの実は黒く美味しそうには見えないが、鳥の嗜好はさまざま。掃除しながら鳥の糞の色まで見る作者の目が良い。

評 宗像市 日の里 大和美由紀
 ふる里に青竹高く組まれる日本一の門松仰ぐ
 ふる里に日本一のものがあるのは素敵だ。「仰ぐ」に作者の気持ちが出ている。

評 宗像市 田 久 巻 桔梗
 とほき日の妹のななしみ樹木葬で山野のなかへ消えたと
 初句は過去、下の句は現在と時制の違いが一首を解りにくくしている。下の句の具体が良いので再考を。

評 宗像市 曲 天野 玲子
 わが運勢今年は八方塞がりと社頭に書かれて守り札買ふ
 二句三句の句まがり上手い。守り札の功德か、ひねりのある一首が得られた。

評 北九州市 戸畑区 田中ハツセ
 老の身のろまな動作する事の終わらぬまに冬日暮れゆ
 冬は日没が早く気忙しい。二句切れの歌だが二句を「動作おそくて」とし続けては。

評 北九州市 八幡西区 遠藤 幸子
 おのがみを風に委ねてけなげなり道の端に群るえのころ草は
 運命に逆らわず生きる人を見るようにえのころ草を見る作者。「けなげなり」を他の言葉で表現することも考えてみましょう。

選者詠
 九州の太郎次郎はあさ覚めて
 積もりし雪の白さにくらむ

雪の日はお鍋がいいね大根を
 いっぱんおろしてみぞれ鍋とか



評 宗像市 武丸 白土 凌一
 小雪舞う子狸楽しく走らんや
 宗像市 平井 占部 詩子
 見馴れるて見飽きぬ流れ春近し
 宗像市 日の里 花田いつ枝
 すこやかに傘寿の春を歩み初む

編集後記 品位を欠いた騒動、大麻、暴行、野球賭博、そして八百長と問題が続きついに大相撲春場所の中止が決定した▼相撲の起源は神の力比べ、つまり神話まで遡る。全国各地の神社や学校には土俵があり、子供相撲や横綱土俵入りも各地で行われている。巡業地では相撲部屋を受け入れている神社も多い▼今回の決定を受け、比較されるのが明治維新の頃である。急速な欧米化が進み、鬻(まげ)や裸体にちかひ姿が時代にそぐわないと危機を迎えた。その中で当時の力士らは靖国神社の建設や地域の消防団に入り奔走したという▼大相撲はスポーツ競技や格闘技ではなく国技であり、力士には品位や人間性も求められる。とはいえ、興行的側面も強く問題は根深い▼圧倒的な強さやスター性を求めてしまう我々大衆にも問題はあり、単なる勝敗だけでなく相撲をみる目を養わねばならない。一日も早くかつての相撲人気復活することを願って止まない。(塚)